July 1894
no. 388

明治十八年初刊

女學雜誌

每週土曜日發兌

第三百八十八號

要目

高橋傳五郎

北海孤島に道の爲に殉死したる彼は何如なる人ぞ、茲に其品格精神を傳す。

花嫁の著者

「日本の花嫁」の著者は、遂に大會多數の議決によつて教師を罷められたり。志士の所論何如ん。外人の所感何如。

禁酒の文

上杉鷹山公。諄々として禁酒を說く。之を說く當に如此なるべし。何人か服せざらん。

兒籃あり、論說あり、開書あり。

明治二十七年七月十四日發兌

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.
(JOGAKU ZASSHI.)

第三百八十八號目録

社説
「日本の花嫁」著者
論説
女子教育家に告ぐ（鷗村生）
兒籃
淋しき岩の話（上）賤子
雜録
戰國時代士ひの氣風（秋玉庵）
讀書十箋（しづか）
徒然草
隨感ふたつ（めみぢ）
戀背居記（其四）市谷生
文しらべ
禁酒を勸むる書（上杉鷹山）

開書
むら子の來書
統計
明治廿六年日本基督教徒の統計表
史傳
高橋傳五郎
時報
高等女學校學期試驗○東京女學館卒業式○福岡英和女學校○浪華女學校○女子學院○青山英和女學校○松山女學校○女子就學の奬勵○矢島氏の女子教育上の意見○滋賀縣の二女學校○外人我が學生の缺點を指摘す○札幌女子小學校生徒の統計○教育克くアイヌに及ぶ○養蠶學科◎孝女伊藤民江○節婦佐藤たか子◎野口小蘋女史の名譽○歸國席無黨中に貴婦人多し○ガニソン孃日本風を愛す◎正誤

女學雜誌

第三百八十八號

明治二十七年七月十四日發兌

社說

『日本の花嫁』著者

前一週間、府下に開かれたる日本基督教會の大會は、近き一年半世上の物議を惹起したる「日本の花嫁」の著者田村直臣氏を處罰し、其教師たる職を罷免したり。

抑そも、「ジヤパニス、ブライド」と題目して、英文をもて書かれたる「日本の花嫁」なる著書は、單に記載の事實を誤まるのみならず、記載の品格、何如にも輕佻浮薄なり。然し乍ら、もし之を以て吾同胞に訴たへ其短處に對して警告せんとする時に於ては、尚ほ恕すべきものありと雖ども、海外異邦の人種に向ひて、如此き誤傳を爲し、而も其の誤傳に輕佻浮薄の句調を用ひ、笑ひ乍ら之を傳えて尚ほ恬然顧りみざるに至つては、公義公德の決して容すべからざるものなり。

此如き著述は、尋常の士人によつてせらるゝも尚ほ譴責を加ふべきに、苟しくも人の靈性を開導し、國民の品位を高くせんヿを冀望すべき宣教々師その人にして之を爲さば、愛國正義に志ざしあらんもの、一日も之を寛容すべきにあらず。日本基督教會が、今日に至つて漸やく之を處置したるは、頗ぶる期に後れたる感なきにあらずといへども、一万四千の會員より成れる此大教會は、其組織制法の上に嚴乎たる憲法のあるありて、斯る處置を爲さんが爲めには、幾多の手數を履まざる可らず。匹夫即時に嫁を離縁するヿを得べきが如き無雜作の取計らひを許さゞるによつて如此し。是れ素より已を得ざるものならん。

此の處罰たる、公義の爲めには祝すべきも、個人としての著者を念ふときは、涙なきヿ能はず。況してや、かくの如き處置のあらんとは、固より當然にして、今や則はち當然の結果を來したるに過ぎずとせば、吾黨が情義、もはや此事を再言するの要なきが如し。義に於ては、其必要なく、情に於ては、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

忍びざるものあり。

然りと雖ども、罰は彼個人に與へんとして加へられたるにあらじ。畢竟公義公德を維持し、基督教界の清潔を保存し、其氣風を振作し、殊に宣教者に一大淘汰を加へんとする積極的方針の揚發したるに由らんこと明らか也。故に吾黨は、此機に際して、日本基督教會に向つて一言を寄することを得ん。彼我痛心の時に方つて更に忌はしき記臆を喚起することを忍ぶの情を察せよ。

花嫁著者著述の目的は、佛教の感化を蒙むりたる日本家庭の短所を暴露し、其の如此くなるが故に基督教傳道の切要なる所以を證明し、以て大ひに米人に訴たへんが為めに、極めて讀まれ易く、廣く賣れやすき、人氣よき小冊子を作らんとするにありし也。著者曰く、之より先き、エドウインアーノルド日本婦人の狀態を說き、盛んに其美を過褒して好評を米國一般に傳へたるにより、如此くんば最早や傳道するにも及ばじとて、やゝ日本傳道に對する熱心を減ぜんとするの傾向ありしかば、則はち奮つて其の眞相を暴露したる也と。吾黨は今日に至つて復たび著者が此の精神を是非するに忍びず。

左れど、凡そ外國人に訴たへて日本傳道の為めの助力を請ふものゝ中、往々如此き手段に出るものあることを見聞して、平素慨歎に堪へざる也。夫れ、日本に幾千万の新信徒續出し、基督教傳道歷史に千古比ひなき好結果を生ずと評判せらるるも、既に外人の為めに傳道せらるると云ふは、即はち一等を下つたるの證明にして、實は國家の光榮にあらず、其の好結果甚はだ多しと云ふは、即はち外人の恩勞甚はだ勤めたることを一方に證しゝ、尚ほ他方に於て、日本は現に如此き好結果を呈出して漸やく賞めらるるほどの地位に立つものたるを明らかにするもの也。是れ豈に吾黨の榮譽ならんや。然るを何んぞや、此の眞實なる恥辱を忘れて、反つて之を誇り、海外に游說して之が為めの助力を要め、むしろ國民の短所を暴露して外人の感情を動かし、やうやく以て其の日本傳道の好意を維持せんとするに至つては、廉恥なきこと幾千ぞ。如此くして、俠骨ある日本人士に傳道せんとするは、奴隷が獨立の說教を為すにひとし。何の功益かあらん。

故に、吾黨は、日本傳道の為めに、金を外國に募集する人士の游說に注意すること久し。彼等、何如なる辭柄を以てか之を

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

為す。そもそも傳道は、人物を要すると共に、黄金を要す。故に、好意を以て、其出資に義捐するものあらば、感謝して受くべし。何んぞ之に内外黒白の人種を限らんや。左れば、自個が献身に同情を表し、其の事業を賛成して、好意をもて我に資金を寄するものあらば、則はち外人の寄附金を受けんに害なし。然れども、初めより之に寄り頼み、之あるによりて漸やく動き、屢ば同胞の短所を表明して而して其の寄附心を奨勵せんとするに至つては、既に國民たるの氣慨獨立を失ない、自個の献身を中心として聖なる事業を建立せんとする眞の決心を亡じたり。如此き小人、何をもつてか、聖職に堪へん。其の事業に傳道の名を與へんは、恐れ多きこと也。彼の田村氏の事は、最早や言ふことなかれ。世上今日の傳道者たるもの、倘ほ此の類なき乎。あらば、則はち同一の警戒を加へずんばある可らず。然らずんば、田村氏處罰の一事は、必竟意義なきの私罰とならん耳。

且つ夫れ田村氏處罰の大會席上に臨みたらんものは、凡そ氣風廉恥と云ふことの上に、内國人外國人の如何に其の感觸を異にするやを忽まちにして明識せられたるならん。押川方義、感慨悲愴、義怒憤然として豫言者的の彈劾を為し、慷泣熱涙を揮つて曰く、我國古今我國の國風あり、古來の父母心血を流して子孫に潔美の教育を遺し、万國に對して恥ぢなき親子の關係を造り置きたるに、之をしも知ることなく、貞操堅固、志氣凜烈にして夫婦の關係に、麗はしき歴史あるに之をしも知ることなく、反つて之を海外に侮辱して恬然恥とせず、兄弟之に忠告し、輿論之を責むるに倘ほ憲法にかくれて罪を逃れんとす、自覺せず反省せず悔悟せざること如此きもの何をもつて人に教ゆるの力あらんやと。然るに、尤とも賴母しき外國教師にして倘此の感想を有せず、かゝる慷慨にちとの同情を表せず、大率ね田村氏に賛成して、反つて彼を迫害せらるゝものゝ如く見做したるは、奇怪なりとす。然し乍ら、之れ内外國人、習慣を異にし、感情を異にし、氣風を異にするの明證にして、則はち、内外人事を共にして、やゝともすれば相ひ背反せざるを得ざる所以の元由なりとす。想ふに、田村氏今回の處罰を不當とし、寧ろ之を義死人の一に數へて、或ひは之に義捐合力なとするものもあらんか。總じて、外國人に於ける此類の感想は、其の意思の自由より發するが故に敢て

之を防止すべからずと雖ども、苟しくも之を發して實際の言行に現はすに至つては、大ひに異論なき能はず。彼等諸君は、外國に傳道するものにあらずして、日本帝國內に傳道するもの也。もし傳道の一種の教育たるとを知らば、其國特有の歷史習慣人情氣風等に鑑みて、尤とも忠實に尤とも謙遜に道の適用を考查する所ろなかる可らず。是れ教育の通則にして、亦た舊約に新約を妙合する所以の聖旨にあらずや。然るに、此の帝國に來つて、此帝國の歷史を知らず、此國民に接して、此國民の氣風を知らず、徹頭徹尾、自我國の習慣によつて、自我同族の意見を妄行せんとす、之れ迂にあらずんば、則はち無禮なり。或る外國教師は曰く、此如き事によつて如此き處罰を爲さんとする大會の正員になるとは、御免蒙むると。又他の一人は曰く、かく〳〵の如き裁判法は、歐羅巴、亞米利加には無き所ろなりと。抑そも、習慣、感情、氣風、歷史等の事に至つては、彼等外國教師は、門外漢にあらずや。苟くも謙遜にして謹厚に、吾が日本の先輩を敬重するの道を知らば、此の如き問題に對しては、當に口を緘すべき筈也。もし口を開かんとせば、先づ以て公平にして勢力ある日本人の大勢は、此の事に關して如何に思考するやを、謙くだりて顧問し、若し不思議にも自己の意見と相ひ違ふとあらば、是ぞ則はち國風を異にするの所以にあらずやと反省し、深く愼思して而して後ち敢て所見を吐露すべし。然るに、日本信徒の見識今日の如く、其獨立今日の如く其抱負自重亦た今日の如き時世に當りて、三十年前初めて日本の傳道を開きたりとの自負心によつて、今に至る迄で、日本信徒の成大を認めず、いつ迄も傲然として長老先輩を以て任ぜんとするは、迂にあらずして何んぞ。もし迂にあらずとせば、則はち無禮なり。吾黨は知る、此如き機會は、即はち彼等外國教師に取りての苦節の時なりと。吾黨は知る、如此き問題は、即はち彼等外國教師に取りての困難なるものなりと。故に、諸君が判斷の當を得ざるは、必らずしも責むる所ろにあらず。但だ其の事を視る謹厚ならず、一概に自我の習慣氣風を標準となさんとし、毫も日本特有のものに念注せずして、帝國信徒の多數なる先輩が言動に顧慮せざるとの、何如にも失躰なるとを責ざるを得ず。左れど、彼輩諸君のうち、亦た謹厚の人なきにあら

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ず。或一人は、投票權を棄てたり。或一人は、申ようなしと言へり。他の一人は、たとひ多數の意見に反對したりと雖ども、其意見を吐くに當りて、尤とも用心し、久しく此疑議に惑ひたる衷誠を露白して、「考へますれば、考へまするほど、云々」と辯じて、其の止むを得ず私見を斷ずるの忠情を明らかにせり。此等の諸君は、眞とに其道を得たりと云ふべきなり。

嗚呼、田村氏の事件は、既に落着せり。區々たる一小冊子、「日本の花嫁」は、罰せられたり。何んぞ今日に方つて、再たび、死骨に鞭うつべけんや。左れど、此事件は、すでに了りて、此事件に類すべきものは、尚ほ多し。此事件は、快よく處斷せられて、而も此の類の處斷に反對せんとする事情は、尚ほ存すること多し。故に、此の如き機會に於ては、更に厲言して平素の慨思を發表せざるを得ず。讀者、希はくは、情に不忍の形跡あるを許せ。

壯志未酬三尺劍、
明時不用百家書。

論説

女子教育家に告ぐ

鷗村生

兵を用ゐんとせば、先づ廟算既に成るものなからざるべからず。女子を教育せんとするには、其目的に於て、確然動かすべからざるものあるべきは當然なり。

物の眞相は時に外物の爲に蔽ひ陰さるゝことあるも、何れの時にか、遂に復露れ出でざるなきこと、恰も嚢裡の錐の如し。かの教育てふものは、到底世と伴ふ、ハヤリ物に非ず、非ざるべくして、實際社會の大勢を左右にするものたり。然るに世の罪か、教育者の罪か、教育却つて社會の、うつりかはりし易き、好尚嗜好の爲に、泛々浮沈常なく、殊に女子教育の如きは、今日は流行せりとか、非流行なりとか、稱して、社會多數人の之を見ると、衣服の流行に同じく、又堅志なき教育者等は、世の風潮に動搖せられ、彼といはゞ、彼にゆき、之

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

といはゞ、之に移り、ハヤリを追ひ、流行に沿ひて、遂に敎育と社會との主客の地位を轉變せしめ、世をして更に又之を輕々視せしむるに至れり。然れどもハヤリ物にも非ず、薄志弱行なる敎育者の爲に永く、其眞相を蔽はるゝとなき、女子敎育其者は、常に蒙塵を避け、叢雲を開いて、顯はれんとせり既に見よ、此四五年が程、ハヤラヌといふ形容語の、褻瀆せられたる、女子敎育の大勢は、しづかに其首を擧げて、進み來らんとしつゝあるに非ずや。其眞相は發揮の時を待ちつゝあるなり。然りと雖も、此時に於て、女子敎育に任ずるもの、もし大に廟算計策して、其大勢を迎ふるにあらずんば、たま〱折角顯れんとする眞相を蒙塵し、貶して、ハヤリものとなさん。今日迄女子敎育をして、社會の風潮の泛々たらしめたるは、其罪多くは、女子敎育者が、堅牢なる覺悟なく、何が爲に、如何なる目的に於て、女子を敎育すべきや、それ等に關して、成算の明かなるものなかりしが爲なり。廟算なき兵は、必ず勝たず、廟算なき敎育は、必ず破れん。女子敎育の必要如何を論ずるは、既に愚なり。醫藥食餌の男子に必要なると共に、女子にも必要なるが如く、男子に欠ぐべからざる敎育は、女子にも欠ぐべからざるものなり。敎育は『人』を目的とするが故に、男女を區別すべき理なし。眞正の敎育は、男女を分たず。世人の未だ此理に通ぜざるは、無理ならぬとはいへ、敎育家其人にして、男は男、女は女と、大に差別を其間に劃して、敎育せんとし、兩性が外面の些少なる差異の下に陰れて、深且大なる人性（ヒユーマニチー）を啓發開展するとを知らざるものあるは、其愚や又笑ふべし。男女たる差異の點は、敎育の力を煩はすものに非ず。敎育によりて、開闡せらるべきものは『人』たる處にあり。男女を男女としてのみ見るとを知りて、之を眞に『人』として見るの大なる智慧なきものは、既に敎育者たると能はず。今日は敎育者にむかつて、『人』を學ぶとを敎へざるべからざる時代なり。殊に其然るを、女子敎育家に於て見る。女子敎育家たるものは、女子に於て眞人の性を發揮せんとを、主義とすべく、プレトーが、哲性（フヒロソフイツク、キヤラクター）といひたる如き、修養を得たる婦人を養成せんことを志しとすべし。此志望主義を抱いて、爰に初めて其廟算に明かなるもの出づ。かくして其敎育法に於て、世のハヤリの

爲に動搖せられざるものあり。竊に思ふに、女子を敎育するものにして、女生に文學を敎ふるは、何の爲か、地理歷史を授くるは、何の爲か、數學は、經濟學は、どれ程の効力あるものか、畫學は何の益をなすか、之を明かにして後に、學課を立つるもの殆どなし。先づ大低は、彼學科、此學科は、何處の學校にても敎ふるものなれば、敎へて置かんといふ位にとゞまるものにあらざるか。如此きが故に、自然其女學校の敎育法と、世の流行に制せらるゝこととなり、此頃は裁縫がハヤル、さらば裁縫の時間を增置せよ、養蠶がハヤル、それ養蠶科を新設せよ、抹茶生花がハヤル、琴がハヤル、それ、其課目を立てよ、英語が下火になれり、それ、其時間を減ぜ、和漢學が重んぜらる、さらば、其時間を增せよと、動搖常なく、遂に生徒をして、向ふ處を知らざらしめ、敎育は其目的を達せざるに至る。昔中華に、二人の妻を有てるをのこありけり、妻の一人は年未た若く、一人は既に老いたり。老いたる妻は、彼をのこに、頭髮の黑きは見苦しといひ若き妻は白髮を見苦しといひ、彼は兩妻の意を迎へて、黑白共に拔き行きしものから、遂には其頭上一絲の鬢髮だに剩さぬに至れりといへり。世の流行を追ふ、女子敎育の末路は、彼をのこの運命なり。よし又ハヤリを追ふつもりならずとも、流行には一瀉千里の勢あるものなれば、確としたる成算ありて、之にあたらずんば、不知の間に、其中に卷き込まるゝなり。女子敎育は實に流行に伴ひ易きものなれば、主義目的を『人』の養成に置き、之が爲には、此學科の何程の効力あり、彼學科と幾許の價値あるかを計りて、學課を立てんとは、任を女子の敎育に負ふものに於て尤も切に要求すべき處にして、一の女學校を新設せんとするに當り、第一に定むべき前途の方針なり。是れ敎育に於ける秘決の大なるものなり。かくして其敎育はハヤリを追はず、敎育は敎育の爲に行ふべくして、社會の好尙流行の爲にすべからず。社會の風潮に支配せらるべきに非ずして、之を支配すべきなり。此よりすべき處に、却て、彼よりせらるゝは、今日の敎育、殊に女子敎育が、敎育家の罪によりて加へられたる權利の損害なり。

世人の女子敎育に責むる處は、あまりに多くして、到底悉く應ぜらるべきに非す。世の父兄の妹娘を學校に送るや、彼處にゆけば、何事にても習ひ來ると思へる多し。裁縫も上手、

琴も上手、料理も巧者、抹茶生花の手ぎはよく、十露盤も達者、書畫も立派、和漢學も出來、英語も上手、何にから何に至るまで、一ッとして出來ざるものなきやうに望むが如し、女學校の教育、もし此等の要求に悉く應ぜんとせば遂に失敗を招かん。善美なる女子教育の造り得べき終極のものは、智慧を愛し、學問を好み、識見凡ならず、性情偏せず、德高くして、眞摯、博愛、正義、勇氣、廉節の友たる婦人なりとす。

女學子がいへる如く、今日は正に、女子教育大勢一轉の機に在り。此時に於て、女子教育者たるもの〻、大なる主義と、非凡の覺悟を以て、之を歡迎せんことを望む。女子教育に任ずるものに對つて、殊に望むべきは、社會の根本的革新は、誠によく、女子を教育するとによりて、初めて行ひうべきものなるを知り、身命を國に許して、慷慨之に從事せんとなり。社會の改革者たる志想は、女子教育者に於て欠くべからず。目を擧げて見よ、田は既に色づきたり、女子教育振興の好時は來れり、熱腸の人、正義の友たる女子教育者よ起て。國を愛する赤誠の心を以て、主義堅く、廟算明かなるものを得、而して後、事に從はんか、女子教育は万劫に亘りて、衰へず。我大和の國は、爲に天の高きに擧げらるべし。

兒藍

淋しき岩の話（上）

朧　子

左は詩人チーン、インヂローが「子供に話せし物語り」といふ著作の中より抜き出せし也。

三年以前、私は烈しき病氣に侵され升たが、病が稍平癒する時分に、父は轉地療養の爲にとて、私を引つれた處は、人足繁き當時流行の湯治場などでなく、スコットランドの北の境にあるオークチ岩島の岸にある一の淋しき農家でした。尤も父が幼少の頃、いたく心にかなふた場處といふとでした。元來スコットランドは父の生國で、幼少の時に英國へ移住したのでは有升たが、古郷を慕ふ情は常に變ることなく、殊に其風土が人の健康を助くる一事に於ては、固く信じて居り升た。その外好んで養つた一の想像は、親なる人がかつて樂し

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

み眺めた景色は、子なる者の視覺に始めて觸るゝに當つて、新な物の樣でなく、どふやら以前見た心地だといふ傳心性の一種不思議な感を引起すものといふことでした。それ已ならず、此感覺は奇妙に人の心を靜め慰めるもので、平常見慣れた景色などより一層愉快を催させることゝ申聞けました。

一度ならず屢父が此說を立てるのを傍聽し升たが、私は其譯も分らず、別段信用も置ませんでした。病患の煩悶は頻りに私の心を焦立升て、我身が何處へ行いて、どふなるか、それさへ無頓着な鹽梅で、舟旅の間なども、私は身動もせず打伏し、四方の景色を眺める氣力さへ起りませんかつた。然るに、私が此度父の古鄕に參つたに付ては、父の平常申した說の眞で有つた證據が始めて現はれ升た。到着は夜中のことでしたが、翌朝フト眼を醒まし升と、先づ一寸、懷しひ古鄕へ歸つたといふ樣な一種異樣な愉快を心に感じ始め升た。何となく面白き四方の景色を眺めるに、飽くことを知らぬほど樂しく感じ升たが、さりとてこれはと驚ろくほど新たなる趣味は、一向心に浮びませんかつた。

折しも八月のことて、北國の氣候のいと悅ぶ可き時でした。

私は日々枕の上に頭を休めて、入江を見渡しつゝ、近頃まで激烈なる熱病の苦悶を味つた者には、一際有難き平和と此上もなき靜けさとを樂しみ升た。病中は常にめま苦しき雜沓のたゞ中にある心地で好ましからぬ來客に顏を眺めらるゝ煩しさを忍び升たが、それと今日の有樣は如何計りの變化で、何ほど安樂で有つたか、實にこれほど嬉敷ことは有ませんかつた。私に物いふ人は父と供につれた下婢と丈で、其他は凡て言葉を交しても互に通ぜぬ人計りでしたから、私は聊の邪魔もなく、寐てはまた起き、起てはまた寐升た。

私は東の白みかゝる時分、はや眼さめて、靜けき入江の氣色に見入り升た。幾多の黑岩の起伏するが有つて、水面にさま〴〵の影を造り、或は伸び、或は縮み升て、水を抱いて保護する樣が見へ升た。水面は時として鏡の如くに靜かに、また時としては、僅かに岩石に戯れ寄つて、岩頭より長き吹流しの如くに漂つた海草をソヨ〳〵と動かして居り升た。

また時としては、海霧の崖頭より崖頭に引張りたる掛幕の如く、江口に橫つて居ることが有升た。暫時にして雪の如き掛幕は琥珀色と變ずるよと見る中に、中心に光澤を生ずることが有

升。一度私は俄かに此光の現れる處を見て、萬一船火事ではないかと、恐怖見守つて居り升た。併し間も有せず、廣大なる太陽が姿を現し升て、さ霧の中に溶解け込んだ峯々が却つて遠方に見へるまで、極々間近に思われ升た。餘り間近に見へて、それと私との間に行過た夥多の漁船を數ふるも不思議な樣に思われ升た。然るに、いつの間旅行したものか、今度氣のついた時はモウ、ズット遙かに遠くなり、其皓々敷とは見る眼も眩ゆきほどになり升た。霧は上下とも僅かに變更の摸樣を現はし、恰かも簾を捲くが如くに、外海へと引退り升た。さうする中、俄かに微風が海面に起つて、黄色の筋を渡した合間は一面に白色で有つた海づらは、いつ變わつたと心づかぬ間に藍色に變じ、忙しくさゝ浪の皺をよせて居り升た。霧は大方溶けて、後ろなる五ッ六ッの洞を現わし、殘りは其洞の中に退隠し、遂に眼に觸れずなり升た。

私は日夜打伏すつれ〲に、美事なる入江の景色に眺め入つて、一々暗んじるまでになり升た。午後に至れば、海づらは淡藍色に變じ、屹崛たる岩崖は夥多の水鳥に斑點を打ち、遙か彼方に日光の輝く處に小さな山羊の崖また崖へ攀登る樣に眼を注ぎ升た。一株にても青草の生ゆる處には、必ず其白き胸を見るとでした。併しこれ等に勝つて、見出が有る樣に思つたは、入江の中央に屹立した一の孤岩で有つて、其高く黒き岩かげが浪のうね〲流るゝ鹽梅には飽くとを知らず眺め入升た。私が殊さら此岩石に千々の感をよせた譯は、千變万化する眼下一面の景色の中に、此一點のみは決して變らなかつた故です。

海面は白くなり、黄色になり、緑となり、藍色となり升た。潮流は遠く引退つて、砂濱のあらわなることもあり、再たび立戻つて、岩石の間に迸ばしり、岩頭に白玉のお化粧するともあり升た。海は時として鏡の如く滑かに、數千の鷗を浮ぶると見升れば、一轉して荒浪逆捲き、小舟を覆さん計りに騷立折が有升た。崖はといふと、月あかりはそれ等を城と見せ、船舶と化し、日光の輝く頃には、雲の色や、日の高低によつて、黒くも、茶にも、藍、緑、赤、さま〲の彩色を施こされ升た。

然るに只今申した海中の黒岩は、巖として聊かの變動を呈しませんかつた。私の居場處から見た處では、一の偉大なる柱

の如く、角張つて、中程に少しく凹んだ處が有るので、北岸の方に傾ひて居り升た。此岩の有様が終始變らなかつたとと思へば、病後の衰弱に現然見た夢には、何故此岩がいつも人間の形狀に變じて居たか、トント分りません。誠に嚴然と可怖ら敷男で、頭を胸に垂れ、黒く重氣な廻し合羽の下に腕組したと見升たが、さて眼さめて、入江を見渡し升せば、床しき月光が如何に其岩を輝らし、いかに其影をあやどるも、矢張りいつもの通り、孤獨に、寂寥に、腰を屈げた一塊で有つて、何とも他に見様は有ませんかつた。

雜錄

戰國時代士ひの氣風

秋玉庵

奥州岩瀬郡の内に、明和九年の頃歳百三十一の老人耳目行歩若者の如しとて白河の城下へ連來りて綿銀子等賜はりし事あり。此翁元は最上家の浪人にて羽州の生れなりしが、最上家退轉の後岩瀬郡へ移り住みしなり、白川侯より古き事共さまざま尋ね玉ひけるに彼老人曰く

我等は大坂御陣の時は初陣にて、鴫野の冬陣に出で首一ツ取たるが其時は我等が親未だ存生にて五十歳計にてありしが、我等彼軍の樣子を物語して聞せしに、親の申けるは我等の父、八十餘歳にて果られしが其人の申されけるは、

我等が若き頃の戰の時分銘々軍に立もの〻口僻には、か〻るせつなき浮き世に生れいで〻、何を樂しみに活て有べき。少しも早く死して助からんと思ふもの計なり。此故に軍も手嚴しく働きも今の人は及びも付かず、我等幼年の頃までは其氣ざし殘り居しに、段々袋の口を締むる如く、世の中靜謐になり軍の數も一ツ減り二ツ減りして、銘々命をかばふて後を樂しむやうになれり。近頃軍に立つ人ごとに申は、家を出る時妻子を忘ると。此詞我等年若の時は知たるものなし。如何となれば、不斷妻子を忘れ居る故、別に妻子を忘る〻事改めて有べからず。然るに此ほどの軍は、首を取ては主君の恩賞に預からむ、高名して譽れを顯さむなど〻思ふのみにして、或は恩祿加增を得ん事を樂しみ、子孫を繁昌させん事を思ひて働く故双方死を遂るもの稀なり。去る慶長五年關が原合戰

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に立しものゝ噺しを聞くにあはれうかりける此度の軍かな。何しに武士に生れ來りしぞや。町人百姓にてあるならば、かゝるめにはあふまじきにと、世を恨み身をかこちて此戰治りなば、いかなる山家隱家へも引籠て世を安々と暮さんと思ふもの多かりしと聞く。漸く大將の采配の動く段に魂しつかりとすはりて、死を一圖に決せりとなり。我等年若の時の合戰はさにあらず。とにかくさしおきて、百人行けば九十人までは大方死す。其中にて生て戻るは、手柄をふるひ高名したる傑出の大剛の者か、さなくば大の臆病者なり。たとひ生て戻りても飢て食ふべきものなく、妻子も兵火の爲に燒死ぬか、又は海川に身を投ぐるか、自害するか、行衞知れざるなどにて家居は打こわされ、又は燒失して跡形もなく、親類友達も討るゝもの多ければ、生て戻ての樂しみ少し。たとひ恩賞を行はるゝにも其田所のみにして、作るべき民家もなし。金銀腰の物など貰ひても、武具旗指物等の入用下々の者へも分ち與ふれば我身に付けて樂しむ事なし。故に早く死て助かるを是と心得しなり。古の大將名士佛法を尊み經を誦れしも此故と思ふなり云々

讀書十箴

しづか

エメルソンの讀書箴に云はく、有名なる書、一年經たざる書の外は讀むと勿れと。我にも自戒あり左に、

一、書は須らく精讀すべし、徒らに多讀すると勿れ。夢幻の如く粗雜なる智識、百種あらんよりは、寧ろ精細確實なる十種の智識あるに若かず。

二、僅かに讀みて深く思ふべし。多讀に流れて精思を欠くものは、書中に自己を沒入し去り、抽象的空想にのみ富むに至らん。

三、席を清め、身心を正しうして讀むべし。机に對するときは、禮服を着したる如き心得あるべし。ねころびて書を讀むときは思想もねころぶに至らん。

四、一定の順序を立てゝ讀むべし、亂雜に讀むと勿れ。難澁なるものを先にして、容易なるものを後にすべし。注意力にもリズムあり。

五、熱心に意を用ゐて讀むべし。うはの空にて讀むと勿れ。若し用事あるときは、先づそを辨じて後ち讀むべし。さ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

れど心亂るゝの恐れあるものは、一定の限りまで讀み終りて後ちに辨ずべし。

六、批評眼をもて讀むべし。服從的に讀むと勿れ。六經中にも尙ほ僞文章あり。悉く書を信ぜば書なきに均しからん

七、久しく世上に喧傳せられし書は、須らく精讀し置くを要す。坊間に有りふれたる紛々たる小冊子の如きは、大凡有名なるものゝ枝葉を新たに曲ねりたるものと看過せよ。

八、讀書に費す時間は、自修鍛練と實地觀察とに費す時間より短かゝらんを要す。後の二者を欠くの讀書家は、決してほめたものにあらず。

九、或一事を組織する心得にて讀むべし、着眼自から高く、意を用ゆる深きに至らん。されど通常に於て、或る一事にのみ注目するは、素よりよからず。

十、書を讀みし後は、書を無きものと思ふべし。書をのみ之れ賴りとするものは、遂に何事も書なければ辨ぜざるに至り、書中より得たる智識をのみ上乘とするの愚に陷るなり

めでたき人の頭にも入れ年の暮

つれ〴〵草

隨感ふたつ

もみぢ

◎松の常盤に、梅のかぐはしく、ぼうたんのうるはしきは、何の理ある事にもあらず、松となりてはいつもときはにして常盤ならざる事あたはず。梅となりてはいつもかぐはしくしてかぐはしからざる事あたはず。之を自づからの天性とは言ふ。子の親に於ける、民の國に於ける、孝ならざる事あたはず、愛護せざる事あたはず、惠よ恩よとよそに目をつけて爲すべき事にはあらず。恩惠に報ぜんとするは、道ゆく人もかたみに爲す事なり。自から爲して其爲すとを知らざるに至り、初めて善し。之を無意識の善と云ふ。右の手之を成して左の手、之を知らざるが如し。

◎されど、無意識とは、初めより無感覺なるの謂ひにはあらず。先づ、大ひに感覺し、又しば〳〵感覺し、此の感覺大ひに熟して、遂に沒感覺に到るを無意識とは言ふ。水の流れ、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

山の動かざるは、無意識にはあらず、初めより無感覺なれば也。涅槃に入り寂滅に了するとも、與とに死灰枯木とひとしからんこと、豈に悟道達德の極致ならんや。

曝背居記 其四

市谷生

大空に奇しき雲立騰りて日影きらきらしく照り輝き濠堤を行こふ人も松の木影をたどるころになりぬ我曝背居と云ふ名開くだにむしあつきこゝちすされど尙之をすてざるは前の記に次げばなりけり。

我友新田清節は心ざまいとすなほにて至孝のきこえあり文書くわざにも長じ一醫事雜誌に筆とりて人に知られたるほどの有爲の青年なりしに惜いかな悪性の腫物に侵されて四月の末つかたに身まかりぬ、あまりに本意なければとてそが三週日にあたれる日友どち打つどひて追悼の筵開き新樹と云ふ題出しておのがじゝ、たむけの歌よむ己れのよめる歌

ぬれいろに見ゆる若葉はやがて我
　なみだのかゝるこゝちこそすれ

しげりゆき木ずゑを見ても忍ぶかな
　君が言葉の花のさかりを

早く癒えて、もろともに小金井の花見んとちぎりしをその花今はちりはてゝはかなくも若葉の歌たむけらるゝ身となりしはいと〳〵悲しうこそ覺ゆれ。

庭の梅が枝の半ば折れかゝりて僅に支へたるに春のはじめ花のさき出でければいとあはれに覺えしをやがて花ちりはてゝ異枝と同じく實あまたなり出でぬ健かなる身をもちながらなすわざもなくて日を過ごせるはこれに對しても恥かしきとなりなど常にあたりの人々にも語りぬかくて日を經るほどに實漸く大きくなりまさる、ある夕月おもしろくてりわたりて若葉の露、白玉をつらぬ山ほどゝぎすおり〳〵忍び音をもらすとき二三人まとゐして語ろふほど風もなきにみし〳〵と音して此枝折れて地に落ち實のあたりにちりみだれぬ自ら荷へる實の重さに得堪えずなりつるなり己れこれを見て覺えず面を掩ひて泣き出しを人々物狂しとて笑ひぬ。

向島にて書畫のまとゐに臨みたるかへるさ人々と花屋敷に到りぬ今は菖蒲の外見るべき花なけれど秋草の若葉所せまきまで茂りあひて七草の一つ緑に生ひ立るいと凉しげなり此宿に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

隅田川焼と云ふ陶器作りてひさげり家の女房などの召せ〳〵と勧めければさゝやかにてうつくしげなる一つがひの都鳥のかた求めもて歸りて寓の女子に與へぬこを見て水に入れなば浮ぶならんと云ふもあり机に置きて筆の枕にせばよからんと云ふもあり遂には小さき箱に眞白なる絹しきてそが上に並べて弄べりあくる日己れそを認めて箱の蓋に書いつけたる。

　樂しげにふたり住ひて波風も
　　しらぬ鳥こそうらやましけれ

人物の高下を別つ誠の標準ありやと尋ねし人あり己れ答へけらく人に上中下の三級ありこを別つは貧富によらず位階によらずまた才不才にもよらず、下級の人とは世に正しき道ありと云ふこと知らぬばかりのもの、中級の人とは文にて讀み師よりきゝて正しき道ありと云ふこと知らぬにはあらねどそを行ふを苦しきことと思へるもの、上級の人とは正しき道を知れるのみならずそを行ふを樂しと思ふものなり其他に高下を別つべき標準ありとも覺えずと云ひぬこのごろ、眞信、愛水など訪ひきて人性を論ずること屢なれど我此記にはあまり理に亘れることを記かんは本意ならねば皆省きぬ。

月雲間を出たり岡の麓の濠より吹き上ぐる清風一陣若葉と共に我浴衣の袖をひるがへしぬ月下に茶を煮て例の今様謳ひなどするをりから隣の室にて月琴の音きこえぬ常は音調せまりて好ましからずとて顧みざりしもをりに合ひたればにや中々に興あり。

　ほとゝぎす今かなかなん久方の
　　月の小琴もきく夜なりけり

かく歌ひ上ぐるほどに一聲二聲琴にもまぎれず冴かに聞えしははかなき言の葉も驗ありげに覺えていと嬉しと思ひぬ。

雨はれしまどの若葉をふく風に
　こぼるゝ露の音の涼しさ　池袋清風

ゆあみして暑さわするゝ夕ぐれに
　山の端いつる月のすゝしさ　竹内竹子

夕月の光も水にみえそめて
　汀によする波のすゝしさ　前島睦子

すゝしくも月てりわたる橋の上は
　立やすらはぬ人なかりけり　下村房子

文しらべ

禁酒を勸むる書

上杉鷹山

此書、鷹山公が文にて、寛政九年の春、勝熙君不例にてやうやく快氣床あげの祝ひありし節、進められたるものなり。辭ば温にして意勁烈、切に同情を呈しながら直に其病元を衝く。聽くもの誰か感奮興起せざらんや。人に禁酒をすゝむるの狀當にかくなるべしとて、右題あり。

先達ての御病症御輕症とは申ながら類中風の御症とて中々早速御全快は是有間敷凡六七十日の御手間取にも是あるべくと醫師共も申聞　大殿樣にも甚御苦勞遊ばされ隨て我々共も痛心致し候處御療養相盡され候とは申ながら以の外不日に御順快既に今日御床退もなされ候と御一己の御仕合は申に及ばす第一　大殿樣御老心を安ぜられ候事我々共迄大悦是に過さることに御座候古人風症の病因を論し候事瀟々是有候へ共外感内傷の二途に過ず醫家道家藥餌導引種々の加養是あり候得共畢竟の處は飲食起居を愼むと申外には出ざることにて禍は口より出病は口より入と申事至言に御座候一度其御症を見はし候上は此以後の御愼み御加養專要なる事に候孝子の親に事へ候事只まめやかに奉仕致し候計には是なく我身柄を大切に愼み不慮の病大なる過ち等是なき樣心掛候事是父母の心を安んずるの第一義にて候故に孝子は暗に服せず共中千金の子は堂陲に臨まず共是あり候事皆是我身を大切に愼み候事に候貴君の上外に御不愼是ありと申には是なく候唯兼々御酒を嗜み給ふ事少し過ぎ給ふ樣に心付候へ共僕性來相嗜まず候故酒中の趣をも辨へず酒は宜しからざる物とのみ存候て申進じ候樣御聞受御座候ては却て如何敷存候間差扣申候酒は血脉を通じ皮膚を潤し鬱を消し意を暢べ歡を結び候物にて美物に相違之なく候間和漢古今共に賞玩致す事に候若其始めより人身を害し候物に候はゝ人恐れて近づけず却て酒に過ち候人も有間敷候得共右の通美物にて候故人々當然の面白さに後來を省みざるより過飲にも及候其過飲するに至ては神を傷り壽を損し筋骨を軟にし其害も亦少なからず詰る處疾を得圖らざる過失も出身命を損し候者多く是あり候故古來酒をは深く戒置候事に候是迄

の事も世上人々の酒量に比してさばかり過飲にもあらずと思ひ給ふにて是あるべく候士庶人の上は一躰の生禀も健に之れあり常に身を勞し候もの故少々過飲致し候共又能酒毒をも消しさして其害を受得ぬにて候王侯貴人の上は素と生禀も薄弱に是あり身骨を勞し候事是なき者故士庶人に比して過飲共相見へず候へ共酒毒にうたれ候事多く是あり候此處心を用ゐ申さず候へば存外の過ち候事是あり候其上御宴興と申せばいつ迚も深夜に相及候終夜御痛飲なされ其儘其酒力に依て一時快く休み給ふに似候へ共其弊必積でいつかは疾を得給ふと恐るべき事にて候且冷飲は殊に宜しからざる事の由平洲先生常々申され候されども吉益が醫斷に禁好物の事を論じ候にも其身の好み候品は則好其身の惡み候品は則禁と申置候然らば兼て嗜み給ふ御酒の儀其既に御順快の上は其節度を屹と相立られ少々宛御用ゐなされ候事は却て御順氣の一劑御加養の一助とも相成べく候今日の上御身柄愼まれ候事全く御一己の事に是なく萬一御病身とも御なり候時は　御老親樣の御心を痛ましめ給ふ事兼々御孝養に御心盡され候とも徒なる事になり行候ては適れ大事なる事に候返す〲此所御心を用ゐられ候樣願

敷事に候偖叙ながら申進し候は貴君の御身柄程御果報なるは是なく候尤表向御勤等も之れなく朝聘會同に預り給はざると御本意なきに似候得共一國の君となり萬民の上に立て政刑を施し候と並々の辛苦には是なく世々の人君幾の勞心を致され漸く老年に至り嗣君へ位を讓られ候上始めて安心に養をも受られ候とに候然るに貴君は其御辛苦も是なく令子世子に相立られ候上は往々居ながら千乘の養を受給ひ令子令孫御繁育なされ御眼前を慰せられ候事何の御樂か是に過ぐべき哉是に付ても御病身等に御成候ては此御樂も御心底に任せられぬ事に候然らば御身柄御自愛是あり御壯健に御長壽なされいつ迄も此御樂み盡せぬ樣にとの御工夫第一なるべく候其御工夫迚も外に別議も是なく候第一は御飲食御起居を節せられ第二には御傅役始め夫々の役筋相撰まれ御附け進ぜらるゝ事に候へば此者共御爲め惡くは取計ひ申さす候何事も御尋に御任せ御自身には春花秋月小盃に程よく御樂みなされ御謙遜を專とし朝夕召仕はれ候面々へ御情深く折にふれては御手はしの品抔賜はり候はゞ誰々も有難く御いとをしく存候より幾眞實無二に御事へ申べく候然るに詮もなく御心遣ひ多く物毎御聞受も宜し

からず候時は人々なつき慕ひ候塲薄く却て行末御身廻りのつまりと相成申候爰の御目附第一の事と存候昔宋の眞宗と申天子未だ御若年なりし時契丹西夏等の外國歸服致さす數度の軍是あり候を王旦と云ふ臣此事を悔いいつかは太平にして枕を安ぜんと歎き候へば李沆と申時の宰相申けるは夕樣の事折々あればこそ君の御戒め共なりて今日迄奢にも長じ給はぬぞかし若此事なくば若き御身にて血氣に任せて色慾にふけり酒宴に長じ給ひ思の外の禍もあるべければ御苦勞なる事の折節なるは却て太平の基ならんと申候先達ての御不例は貴君の契丹西夏にて候此恐れを懷き給ふより猶此末御愼み深く益御壯健御長壽の基と相成前に申伸候御樂み幾久敷保ち給ふ事先達ての禍轉じて今日の福と相成候事誠に以目出度事に御座候因て今日御床退の御祝言に措き筆をめぐらし一小冊子御笑覽に入候頓首

綠葉忽ち低れて、
　鳥の立つを知り。
靑萍徹しく動きて、
　魚の行くを覺ゆ。

聞書

○むら子の來書

前畧御めん下され度候失禮ながら御敎を願たく御うかゞひ申上候餘の義にも無之女子の名の下へ「子」とかくは他人に對しては敬まう意味故よろしけれど自分を何子とかくは間違たる事なり。また學問せし女子などが我名につけると何か自分をゑらい者のやうに思ひ居る如くにも見えて甚だおだやかならず「子」の字は凡て己より立優りたる婦人に對して用ゐるのみ我より劣る者また己には決して用ゐぬ樣するがよろしからんと宿の老人が申し候がとても私にはわからす候得ばある學校に行く方にたづね候處其學校にても我名へは決して用ゆべからずと敎られ候よしまたある立派な學校へ御出の方に伺ひ候處我名の下にも用ゐて居れどとゞめられし事なきのみか先生方も御自身の名に御用遊すと申し候が如何なるものにや判然とわからず候ては此後平常にあやまりを認め居るわけ故御めんどう樣とは存じ候へど御うかゞひ申上候

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

私事は至つてまずしくハンケチのふちぬひ致し居候が今の世に生れながら心までいやしくして一生を暮し候事のかなしく内職の暇には御社の雑誌を拜見致すやう心かけ居候其雑誌とても買求め候事はつゞかず候得共ハンケチを御注文下さるある御商人のわか御新ぞ樣がもと私が學校に在りし事を御存じにて御慈愛下されずい分御いそがしき中を御覽になつてすみ次第に御女中に御持たせ下され候故私は御蔭にていつも取落なく拜見致し居候此わか御新ぞ樣はなみならぬ御心かけの御方と存じ居候

私は十六にて母にわかれそれより學校へも參られず今の職につき候父は私が六歳の時より讀書習字など敎くれまづ愚ながらも仕こみてあつぱれの婦人とも致し度心ぐみのやう幼き時より母とも話しまた私にもよく申きけ候ひしが私の十三の時に故ありて自ら死し候短氣を起し候爲にてせんかたなく候右のしあはせにて今はたよりなき身に候が世の中に最も喜ばしきもの二つありて私を常になぐさめくれ候それは失禮ながら女學雜誌と前に申せしわか御しんぞさまに候私は御社ざつしを師君とも父母とも兄姉とも益友とも存し居候ぶしつけながら友とまで存じ居候つたなき文にてなが〱しく申上實に失禮致し候何とぞ御用捨下され度願上候何とぞうかゞひ上候事御ざつしの上にて御しらせ下され度願上候

御社の透谷といはるゝ御方なくなられ候趣き實に御惜しみ申上候是より御文章も絶て拜見致されずと存じ候へば涙こぼれ申候

未だ拜顏し得ぬに勝手なる事のみ認め候事かへす〲御免しの程ど願上候先は御願用かくの如くに御座候かしこ

六月廿四日夜る　むら拜

編者白す、之に對する答は次號の交詢欄に出つべし。

くれわたる野川のきしを吹風に
　うはらかをりてほたる飛なり　中谷信治

植はてし門田の早苗露みえて
　ひかり涼しくとふほたるかな　日高光子

あさまたきをかへのまつの下露に
　袖をぬらして行旅路かな　高原照彦

夏休み文よむ聲も絶はてゝ
　槙のはしらに蟬ぞなくなる　川本辰子

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

統計

明治廿六年日本基督敎徒の統計表

宗派名	傳道着手の年	敎會數	廿六年度受洗者數	會員總數	本邦人敎師	外國宣敎師（男女共）	補助傳道者	神學生	集金總額
日本基督[1]	安政六年	九二	七八二	一一、一二六*	五三	一四〇	一〇三	一〇五	一三、三九二、三二
日本聖公會[2]	安政六年	八五	七六〇	五、一五七	二一	一四一	一六六	六一	九、〇四五、四四
米國浸禮	万延元年	一九	二三四	一、五四七	六	四七	五九	一〇	一、〇二二、一四
南浸禮	明治廿二年		七	三一		四	四		二〇、〇〇
組合[3]	明治二年	*六五	九五六	一一、一一〇	三九	八三	九四	六一	二一、六六七、九二
美以[2]	明治六年	五九	三七八	四、〇三四	三五	六四	八六	四〇	一〇、一四九、一四
日本メソヂスト[2]	明治六年	二〇	一二八	一、九八七	一九	三四	六四	一三	二、三七四、八一
美普[4]	明治十三年	三	四七	二六三	二	一九	五	三	七一三、四二
南美以	明治十九年	一〇	五七	五〇七	五	四〇	一四	一五	三七五、〇〇
デサイプルス	明治十六年	二	八四	三七二	六	一六	七	三	二六四、四〇
クリスチアン[4]	明治二十年	五	二二	一九九	二	三	八	五	一二六、〇八
米國福音	明治九年	一一	九五	六一〇	一一	一〇	一四	八	一、〇四〇、八六
合衆國福音ルーテラン	明治廿五年		五	七		二	一	一	五、〇〇
スカンデナビアン同盟會	明治廿四年		三五		一	一五	一二	二	
獨乙普及福音	明治十八年	四	九	一九四	二	四	一	八	一一〇、〇〇
フレンド	明治十八年	一	一二	五二		六			三〇、〇〇
インターナショナル、同盟會	明治廿四年					四			
ユニテリアン	明治廿二年				二	一	八	二三	
宇宙神敎	明治廿三年	三	二五	一〇三	二	五	三	九	
獨立		一		一〇〇		三	一		一〇〇、〇〇
合計		三七七	三、六三六	三七、三九八	二〇六	六四三	六六五	三六七	六一、四一六、七三
明治二十五年度統計		三六五	三、七三一	三五、五三四	二三三	六〇二	四六〇	三五九	六三、三三七、〇〇
前年比較增減		一二	九五	一、八六四	二七	四一	二〇五	六	一、九二〇、二七

○注意　1明治二十六年八月三十日の調　2同六月三十日の調　3同三月三十一日の調　4同八月一日の調　*小供一千四百七十四名を合せ算す

●外に獨立自給ならざる敎會三十一あり

此外日本正敎會（希臘敎）は敎會二百十九、信徒二万一千二百三十九人を有し天主敎會は外國宣敎師百〇七人、本邦敎師四十人集會所二百八十三、信徒總數四万六千六百八十二人を有すといふ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

史傳

高橋傳五郎

◎押川方義をして、其の瞳子の如く、其兒の如く、其の片腕の如く愛念せしめ、今正に殉死したるの今日、其の敬友として追慕するの至情禁じがたく、茲に單獨、發起者惣代の名を以て、『高橋傳五郎紀念傳道會』なるものを創立せしめたる彼は何如なる人ぞや。

◎彼は廿三才の青年にして奧州八ノ戸より東北學院に來つて學びつつありし無名の一書生にてありき。學ぶに資力なく、着るに衣うすき貧しき生涯の運命にあり乍ら、持てるものは、皆な與へて惜しむとなく、遂に其一身を道に献げて、今や、日本に於ける新教信徒最初の殉教者となりたるもの也。天より賜はるべき光榮、正さに其の頂だきに加はりたり。彼は、既に無名の書生にあらず。

◎彼れ素と國粹保存家の熱心なる友なりき。基督教は、其の甚はだしく嫌らふ所ろなりき。慷慨壯語して、日本の國防にうれひ、身を軍籍に入れんとを意ひたりき。余が初めて彼を知りたるは、彼が東北に於ける大演習を見んとて、嚢中に錢なく、腹裏に只だ精神を充たして、將に出發せんとしたる首途にてありき。

◎彼れ一朝飜然として道に悟り東北學院に來つて勞働會に入る。勞働會とは、勞役して賃を得、もつて學資を得るものの團躰なり。彼れ、甚たく貧民をあはれみ、常に之を助けたり。彼が、特に救護せしは、一人の跛者なりき、されど、錢を與へて之を救ふは、其の不可とせし所ろなりき。彼は、時時二三里外に廉價なる青竹を求め、之を擔いで跛者に致し、之を用ひてサヽラを作らしめたり。而して、此のサヽラを自から仙台市中に賣りありき、其所得を跛者に與へたりき。此の乞食の類亞たる跛者と、其の席を同もにし、臭氣紛々たる處ろに、共もに賛歌をうたひ、共に聖書をよみ、共に祈禱するは、彼が尤とも樂しみとする所ろなりき。

◎彼れ如此く貧民の友たり左れど、彼が一生の抱負は、東洋の大傳道にありき。而して、其の傳道は、專ぱら、上流社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

會を望んで志を立てたり。曾て、押川方義に請ふて曰く、東洋の大傳道は、端緒を我國の上流社會に開かざる可らず、吾輩一片の確信あり、必らず之を成さんと決す、故に願はくは、可成く久しく學院にありて深く學ぶとを許し玉へと。

◎郡司大尉　報効義會を組織し、千島拓殖の壯圖を懷きて、櫻花爛熳たる墨堤を、送客雲霞の如き間だより出發す。ゆくゆく仙台に到りて暫らく留まれる時、押川方義、之と語る。方義說いて、拓殖に宗教の切要なるとを論ず。談、一と度び國家の事に及べば、慷慨淋漓として、至誠禁じがたきの狀あるもの、方義の常なり。彼れ、感慨無量、涙を揮つて堂々防國と、團結と、宗教との事を說く。郡司大尉、大ひに感動し、席を更ため、肅然として彼に言へらく、

◎足下の說如此し　吾輩まことに同感に堪へず、吾輩も亦た宗教の切要なるとを知れり。東京を發する頃ほひ、或る穢僧も亦た其說を述べられたり、而して、あとより教僧を送らんと約せられたり。蓋し稍や人煙地になれて、土地幾分の開拓を經たる後と言はるるものか。素より、夫にても可し、されど、吾黨は元來事業としての成算あらざる者也。先づ、身を北海の孤島に献じて、千島拓殖の道を開き、屍を此の帝領極北の端に埋めて、玆こに亦た帝の民が住ふべきものたるとを證明すれば足れり。事業としての精考細査は後の其人に賴るべき耳。故に、吾黨此回の行たる、初めより死を決す、生還の意なし。こゝを以て、何人をも誘わず、たゞ其人の好んで征かんとするに任せたる耳。假令、道を傳ふるの人と雖ども吾黨之を誘はんとを欲せざる也。左れど、足下、國家的問題を以て、如此き說あり、久しく足下の名を聞たりと雖ども、現に高說を聞きて、感激一層に切なり。故に足下に問ふ、足下、すでに斯の如き精神を以て、宗教を盛んに弘布せんとす左らば、足下は、平生、また斯の如き志を子弟に鼓吹せらるるなるべし。試みに問はん、直ちに身を挺して千島に傳道せらるるが如き門下生はありやと。方義、曰く、もとより多しと。時に、高橋傳五郎、方義に隨がひて、座にあり。初めより、主客の談を聞きたり。此時、奪然、語ばを挿はさんで曰く、私が居ります、私が參りませうと。方義、顧みて曰く、左らば、汝征けと。即時、千島傳道者は定められたり。

◎彼は此時既に決心したる也　彼は一百二十名の靈性を救は

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

んが爲めに、彼等が生命を棄てんとする仲間に入りたる也。
彼、當時、衷心を露白して曰く、生や學淺く、年若し、一百二十名を救はんとするに足らざるもの尚ほ多かるべし、左れど一片の誠忠あるあり、確かに或るものを天より得て、此の事を成就し得べしと信ず、但だ生還せんとは、全たく望みなし、再たび故友と相見ることなけんと。則はち、押川方義が、生平着用したる洋服を請ひうけ、之を着けて撮影したり。

◎如此き事の定められしは　突作の瞬間にして、大尉が船を出さんとする一時間前の事なり。到底此處より同行せんには難しとて、高橋は陸行して、函館に相會することとなりたり。斯て、後るること一週日、忽ち飛報あり、大尉の一行、鮫ヶ港沖合に於て暴風波にあひ、船覆がへりたりと。高橋時に外にあり、飛び歸つて、方義に曰へらく、事既に如此し、小生は郡司に代つて其の遺志を引うけ申すべしと。直ちに出發急行したり。

◎郡司は幸ひにして無事なりき　高橋はみち／＼有志に歡迎せられ祝送せられ、多くの餞を得たり。彼は、則はち、手拭一とすぢの小さきに至る迄で、悉とく之を記錄し、一々方義に告知したり。其の父の如き、方義をよろこばせんとてなり。

◎千島に達してより　シヤスコタンに居留を試むるの議に、異論ありき。シヤスコタンは、尤とも危險なれば也。慷慨の士、九名、强ひて此に留まり、郡司其他の一行に別れて、越冬の試ろみを爲さんとせり。高橋傳五郎は、此の九名のうちの一人なり。盤城艦、之を聞きて、危險なりとし、歸航の途こゝに寄らんとせしが、岸濤すでに暴らくして、近づくこと能はざりき。東北の知人は、安き心もなく、其後のおとづれを待ちつゝありき。

◎七月六日日本基督敎會大會の席上　田村直臣氏を、其の國家に對する侮辱罪によつて、敎師の職を免ぜんとする討論の際、一の飛電、北海より來れり。席上慷慨、大多數の士、田村の職を免ずることを決せし後ち、押川方義起つて、彼の電文をよめば、

　　シヤスコタン、タカハシ、ソノホカ、ミナシンダ。

◎嗚呼悲しひ哉　彼は如何にして死せし。其の死の狀、未だ明らかならざれど、然れど、死すべきことは、彼が初めよりの覺悟なりき。彼は亦た事業として、其傳道の成功を期せざり

き。彼は、一片の精神を呈して、將來の大傳道の路を開かんことを期したり。彼は其の期する如くして逝けり。彼は、少なくとも他の八名には、道を傳へたり。郡司は、其片腕の如く彼を信任したりき。彼が精神は、すでに報効義會員惣躰に徹透したり。其の志は將來續々として斷へず繼續せられん。

◎方義涙千行　彼を弔ふの演説に曰く、彼は愛國正義の人なりき。眞率と、獻身と、大膽とは、彼が特色なりき。東洋の大傳道は、彼が抱負なりき。屢ば、余を促がして、共に祈りすれば、日本　皇帝陛下、日本帝國は、其の熱誠の迸ばしる所ろなりき。彼は、潔白の士なりき。彼は、精神の士なりき。彼は、多血多感の士なりき。彼は、義の爲めに身を獻じ、道の爲めに殉死したり。獅子に噛まれたるリビンストンの骨は榮えある國葬をうけたり、傳五郎の骨は北海に埋められたれども、其精神、其事業、其感化は、リビンストンに劣るとなし。彼は、新教殉教者の最初のものなり。彼が志は永久滅せず、幾多の志士を蹶起せしめん。余は彼が爲めに高橋傳五郎紀念傳道會を創立す。千島の名を加へざるは、彼が精神抱負の千島のみにあらざれば也と。

時報

◎學校、教育

○高等女學校學期試驗　高等女子師範學校附屬高等女學校にては去る八日より來る十五日迄各級共學期試驗を擧行し廿日頃より夏期休業を爲す筈なりと云ふ

○東京女學館卒業式　虎の門内なる東京女學館にては本月十三日午後二時より高等專門學科卒業生の爲めに卒業證書授與式を擧行し土方宮内大臣、西村茂樹、辻新次諸氏の演説ありしと云ふ

○福岡英和女學校　福岡市なる同校に於ては、去月二十八日第一回卒業式を執行したり、卒業生は左の二氏なりしと

中川　イト、柴田　アイ、

○浪華女學校　大坂市玉造なる同校に於ては、去月二十八日第三回卒業式を擧げたり田中のぶ子の風琴獨彈あり、清水泰次郎氏證書を授與し卒業生へ處世に關する勸告をなし生徒の祝賀詩歌あり卒業生阪本まつ子の答辭あり其他卒業生の和文英文の朗讀あり六段曲の合奏、理化學實驗等あり來賓堂に滿ちなか〳〵盛大なりしと

○女子學院の卒業式　同院に於ては已に報じたる如く去る廿九日を以て卒業式を執行せられしが卒業生は左の諸氏なりき

宮崎かめ子　岡見みえ子　大井しの子　大久保たま子　岡田みつ子
山岸みつ子（以上全科卒業生）
中野うめ子（保育科卒業生）

○青山英和女學校　にては去る廿九日卒業式を擧行したり卒業生は、本科一名別科三名職業部（刺繡科）三名なりき

○松山女學校　愛媛松山市なる同校にては、去月二十九日第三回卒業證書授與式を擧行したり、卒業生は左の如し

竹村　カズ　本庄　ジン　清水　リヤウ　金子　ハマ　岩城　トモ
高橋　カツヨ　川地　ヒトシ（以上本科）
淺井　マチ（手藝普通科）

○女子就學の奬勵　靜岡縣賀茂郡熱海町長、渡邊氏は女子の未就學者多きを慨嘆し此程女子就學奬勵法及貯金法に關する意見を蒟蒻板に付し各父兄に配付せしが要は專ら裁縫を研究せしめ各溫泉宿の需めに應して安價に裁縫し其利潤を貯金せしむるの方法にして本月一日より實施せし筈なり

○矢島氏の女子教育上の意見　「教育時論」紙上、校長意見と題する項中、靜岡なる矢島師範學校長の意見を載するあり、その中に女子教育に關するものあり曰く、女子教育の事は、小學に於ては殆んど忘れられたるもの丶如し、尋常科に於ては

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

男女の教育に格段の區別を立つるの要なからざるべけれども、高等科に於ては女子は女子の教育として大に計畫せざるべからず、法令には高等科に於て全校女子の數一學級を編制するに足るときは、之を一學級に編制すべき由を指定せらるゝもヨシ又之を實行するも、女子獨特の教育に注意するや否や、甚だ覺束なきなり、地理歷史は女子の爲に特に斟酌編輯する所あるか、理科の如きは如何、女子が家政を行ふに於て、子兒の教育を掌るに於て、特に必要なるは理科の智識なるべし、而して理科の教授に於て果して其の過の注意を失墜せざるか、讀本の如きは全く男子の讀本にして女子の讀本にはあらず、擬古文を以て女子讀本の本領を爲すは固より否なりと雖も、漢文直譯の文は、斷じて女子の文章にはあらず、殊に修身の如きは、女子特別の教養を要すると最も著し、然るに以上のとは多くは今日學校教育の注意に入らず漫然として觀過せらるゝなり、女子教育の爲めに惜みても餘あるとならずやと。

又、新聞紙の教授に就て云へらく、教育は極めて實地に近かるべし、徒に高尚の文を讀み得たりとて、日常の事に向ひて盲啞たらば、其功甚だ少なかるべし、女子教育に於て殊に此の弊を見る、故に高等女學校(私立にて靜岡市にあり)に於て、新聞紙教育の一端を開けり、其日尚ほ淺く未半年にも至らざれば、其効否を見るを得ずと雖も、或は大に利あるが如し、其法は、毎朝新聞紙中、社會農工商風俗等に關する記事、報告、廣告等に就きて、特に興味あり、利益あるものを撰み置き適宜の時間を見計ひて之を談じ其の意を釋き以て其實況を知らして實情に通ぜしむるにあり云々

○滋賀縣の二女學校　同縣琵琶湖の東西に二ヶの高等女學校ありて、湖西にあるは滋賀縣私立教育會の設立に係る、即ち滋賀縣私立高等女學校にて生徒の數二百十名、傍ら小學教員を養成せり、校長は村上字光氏にして、山田誠之助氏教頭たり。湖東にあるは、彥根町の設立に係る彥根高等女學校にして、生徒の數二百五十餘名、校長は甫守謹吾氏にして、西山鈴子氏教頭たり、一は私立にして一は公立、一は男教員多くして一は校長を除くの外は大抵女教員、一は小學教員を養成し一は養成せず、校運伯仲の間にあり東西に對立して相待するの風なりと、教育時論紙上、同縣の通信に見ゆ。

○外人我が學生の缺點を指摘す　第三高等中學校雇教師、英人シャープ氏が、先頃書を致して文部大臣に教育上の意見を陳すそが中に我が學生の缺點を指摘したる旨、極めて時弊に適中するものあり

(一)日本の學生が教育の利便を得んとするに熱心なるは稱揚すべきことなりと雖も往々適當なる初學の知識を缺くにも拘はらず高等なる學科を修めんと欲するの念慮極めて多し從て正確適實なる教授に慊焉たらざるの觀あり夫の正確適實なる教授は高等なる學科を修むるの基礎を置くが爲に必要なるものにして學生たるもの猶之を認識せず

(二)日本の學生は又皮相の智識を以て容易く滿足す故に往々一の書籍又は一の事項を再讀再調することを好まず其了解不充分なるに拘らず却て通曉したりと思惟するの弊あるを免れず

(三)前項の結果として日本の學生は授業の方式に關し輕々判斷を下し時として は教授の方法或は教授を受くべき事項に關し教師に指揮を與ふるが如きの觀あり幸に本校に於ては斯る紀律及進歩に有害なる弊風は全く地を掃ふに至れり是れ余の尤も慶賀する所なり

(四)日本の學生は政治を論議し又其意見を陳述するの能力を有するものと思惟し輙く政治問題に喙を容れ斷定を下し及他人をして其說に從はしめんとするが如き傾向あり而して適當に政治問題を論議せんには世故閱歷を要することを顧みざるなり

(五)小學校及中學校の生徒は早く已に法律、文學、醫學、理學の如き高等專門の學術を選擇するの志望を有すと雖も彼等は國の富庶繁榮は商業及製造事業の發達如何に關する者たるを記臆し其職業に從事するの準備を爲すを以て滿足せざるが如し

○札幌女子小學校生徒の統計　本年五月中の同統計を聞くに在籍生徒の數は尋常科四百五十三人高等科百八十九名出席生徒にては尋常科四百四十六名高等科百八十九名日々出席平均の數は尋常科四百二十五人高等科百八十三人にして授業日數は尋常科二十六日高等科二十六日入學生徒の數は尋常科十八人高等科二人退學生の數は尋常科にて十三人高等科にて四人なりといふ

○教育克くアイヌに及ぶ　と題し「北門新報」に云はく英國耶蘇宣教師當時札幌居住のジョンバチエラー氏は本道渡航以來アイヌ保護に力を盡し夙に私立病院等も創設したる事なるが氏の熱心は猶ほ之に止まらず傍らアイヌ教育に力を用ひ生徒を募集すると云ふにはあらねど知己朋友の紹介を得て尋來る者には切實懇篤に英語を教授し猶ほ且つ自から其樓居の茅屋を音訪ふて彼等の性行動作等を偵視し常に教育上の資料となすなど熱誠より溢れ出づる幾多の談話は予輩をして屢々賛稱せしむ事なるが其功遂に空しからず今は其敎を受けたるもの數十名の多きに達し中には滔々と英語を辨じ得るものさへあるに至る氏のアイヌに對する熱心此に至つて已に極る夫れに引換へ我國アイヌ教育の現狀は如何に近時其方法を誤りたる爲め教化全く地に墮ち學齡兒童は恐か丁年のものにても我帝國の文字を解せざるのみならず共言語さへ殆んど之を解する事能はざるもの多し此の時に當り早く已に

他邦の文字及び言語を解す之を國家的觀念に照して一個の斷案を下しなば將た又た何と云はんとするぞ余輩はパチエラー氏の熱心を頌すると同時に當路者アイヌ教育の冷淡を痛擊すと

○養蠶學科　是れ農科大學教授佐々木忠二郎氏が、文部大臣の諮問に答へたるものなり左の單簡なる評は教育時論記者の筆になる

(一)は養蠶學科を養蠶地方の實科中學の一科とすべしと云ふにあり勿論の事と云ふべし、

(二)は卒業期を二年とし左の如く配當せよと云ふにあり

第一年　第一期　動物學大意、植物學大意、理化學大意、昆虫學概論、養蠶論(蠶躰解剖生理飼育法製種法等)◎第二期　養蠶實習、春蠶飼育、夏蠶飼育、四化蠶飼育、製種法、解剖及顯微鏡使用法、

第二年　第一期　養蠶論(蠶卵貯藏論、蠶病論等)、製絲論(製絲法、蠶絲撿查法等)、蠶種撿查法、桑樹論　◎第二期養蠶實習、春蠶飼育、夏蠶飼育、製絲法、蠶病試驗

此學には縁遠き記者が旨評すべきにあらず、然れども這は蠶業專修科の學科の程度なるべし、實科中學の一學科として學科程度をも示されたし、若し之を以て一學科の學科程度とせば、迚も二年にして教へきるを能はざるべし

(三)は教員として農科大學學生生徒中養蠶に從事せるものを用ゐよと云ふにあり、農務局蠶業試驗場あたり不平起りたりと云ふは、是が爲にはあらざるか、

◎美談

○孝女伊藤民江子　は山形縣西田川郡鶴岡町伊藤清の長女にて平素孝養の志深く父清は六十路の老人にして近年身躰不隨となり加之先年眼病の爲め一眼を失し母亦た五十餘歳の老年にして家固より餘裕あるにあらず僅に米菓子の卸賣を以て業とし常に不如意を感じつゝあるも之れを兩親に示さず常に其意に逆ふことなく能く家事に勉勵せり先年近村より聟養子を貰ひ受け其の後間もなく三子を擧げたりしも不幸にして長女は夭死し聟某も又た病の爲めに死亡する等前後不幸打重り家計日に增し困窮を告ぐるも民江は女ながらも獨力以て之れを支へ殘る家族を相手とし每朝市中牛乳の配達をなし家に在ては老母と共々燒菓子の卸賣をなし辛くして今日を送る由而して身は幼より能く婦道を守り聊かも浮きたる心なく今尙ほ益益家業を勵み身は寡婦となりて兩親に仕へ二子を鞠育し居る等實に得易からざる孝女なりと云ふ

○節婦佐藤たか子　は福島縣伊達郡伏黑の人なるが夫島原嘉八が明治十一年狂疾に罹りしより病沒まで凡そ十五年の久しき貧困の中に在りて藥餌看護怠りなく加之婦女の一身を以て多數子女を撫育し且能く公私の義務を盡するより其貞操を賞して金若干を下賜せられたり

◎片々

○野口小蘋女史の名譽　本邦貴婦人社會より米國世界博覽會婦人館へ出品せし品は何れも好評を博し閉會後出品は悉く積戾したるが其の中有名の畵家野口小蘋女史が冬日雨雪を冒して兩度程實地探究の上畵きたる野州鹽原の景は頗る丹精を凝らせし甲斐ありて當時非常の好評を博したるを以て特に本邦貴婦人出品中より之を紀念として我が山高事務官より米國政府へ贈呈せりと云ふ(中央)

○露國虛無黨中に貴婦人多し　露國虛無黨の陰險猖獗なることは已に世人の知る所なるが過日も爆裂藥五十箱滊船の石炭室内に秘藏しあるを發見して取押へ爾後探偵吏は日夜東西に奔走して黨類の驅除に從事せり然るに去五月廿九日同國マリコッフ子爵夫人の私邸内に怪しき節のあるを以て警吏は八方を取圍みて不意に襲擊し家宅搜索を行ひしに果して虛無主義を執る貴女の連判狀を發見したりと此時妙齡の一女生徒は睡眠中警官の捕縛する處となりしが途中縛の繩を脫し身を躍らしてネバ河の中流に投じて溺死したり右等の危險ありたる爲め露國宮城の守監は宮中に毒殺等の陰謀あらんことを恐れ悉く宮女を解雇したる由(讀賣)

○ガニソン孃日本風を受す　米國宣教師ガニソン孃は、愛媛松山市に滯在する六年餘にして布教上に盡力せし外に同地の松山女學校の教育を補導せし功勞亦尠なからずといふ同孃は近日歸國する由にて、同地の信徒並びに女學校生徒等隆んなる送別會を開きたりと、同孃は大の日本好にて我が日本の土地肥へ氣候中和に山緑に水清く人情の淳厚優美なるを愛し抹茶の如きは何時しか其の技に達し殊に日本女服の洋服に比して風致に富めること幾百倍なるやを知らずとて常に之れを愛好し送別會へも之れを着て出席したる位にて又國許への土產として數多京人形を購ひ各地の織物にて種々なる衣服を製して着飾らするなど他の日本風を愛する歐西人に比して拔倫の差甚しと

○前々號正誤　本誌三百八十六號「浦の狂女」中、振假名の誤植あり。(上の巻)漁者(すなどり)は漁者(ぎよしや)。櫓(やぐら)は艪(ろ)。(中の巻)意(こゝろ)は意(い)。念(おもひ)!は念(ねん)!。五年(いつとせ)は五年(ごねん)。(下の巻)天の野べは天の野べ。小兒(こども)らは小兒(せうに)ら。目あら/\は目あらく。漁者(すなどり)は漁者(ぎよしや)。獵(かり)すは獵(れう)す。かたひは、かゝひ。中(うち)には中(なか)に。それャコマアはこれャコマア!。取ッたの!は取ッた!　狂(くるひ)は狂(きやう)の誤。

△正誤　前號本誌上、十五頁上段十一行、此身は御身の誤植、同下段、五行敵くは敵くの誤植

女學雜誌社發賣書籍目錄

鈴木弘恭大人述
百人一首講義　全　正價金二拾八錢　郵稅金四錢
同
文法口授　全　正價金拾二錢　郵稅金二錢
若松賤子譯
小公子　上　正價金二拾八錢　郵稅金八錢
小此木、布川同著
俳諧史傳　全　正價金三十錢　郵稅金四錢
松山高吉君著
邦文學　全　正價金拾二錢　無郵稅
鈴木弘恭大人述
雅俗諧體作文口授　全　正價金二拾五錢　郵稅金四錢
同　講述
參考標註徒然草講義　一　正價金八錢　郵稅金二錢
同　標註
參考標註徒然草抜萃　全　正價金貳十錢　郵稅金四錢
同　著述
參考標註竹取物語讀本　全　正價金貳拾錢　郵稅金四錢
同　著述
參考標註土佐日記讀本　全　正價金二拾錢　郵稅金四錢
同　著
女學校用讀本國文抄讀　五冊　一冊正價金二十二錢宛　一冊郵稅金四錢宛
池袋清風大人著
淺瀨の波　第二編二冊　正價金三拾二錢　郵稅金四錢
島田三郎巖本善治同著
公娼可滅　全　正價金四錢　郵稅金二錢

島田三郎植木枝盛同著
廢娼演說　全　正價金五錢　郵稅金二錢
吉田利行君著
日本女子讀本初歩　二冊　正價金二拾四錢　郵稅金四錢
同　著
日本女子讀本　三冊　正價金三拾六錢　郵稅金六錢
木村熊二君編
漢文抄讀　四冊　一冊正價金二拾四錢宛　一冊郵稅金四錢宛
橫山雅男君著
婚姻論　全　正價金十六錢　郵稅金四錢
船越鼎太郎君著
產婦小兒攝生法　全　正價金十錢　郵稅金二錢
三島通良君著
母のつとめ　母の巻　子の巻　正價金五十錢　郵稅金六錢
巖本善治君著
女學叢書木村鐙子傳　全　正價金八錢　郵稅金二錢
安東松治郎君著
貧兒の教育　全　正價金六錢　郵稅金二錢
星野愼之輔君著
昆蟲植物金石採集法　全　正價金八錢　郵稅金二錢
寺尾熊二君著
植物學　全　正價金十錢　郵稅金三錢
櫻井明石君重譯
希臘孝子胼立比物語　全　正價金三十五錢　郵稅金四錢
農科大學出身星野愼之輔君
應用植物編　全　正價金四拾錢　郵稅金六錢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

高橋傳五郎紀念傳道會資金募集廣告

千島基督教傳道者高橋傳五郎君今や北辰の直下氷海の孤島に殉教せり嗚呼悲哉我等の情や、主の御意ならんには熱氣瘴風人を殺すの赤道直下も寒氣凛烈人を氷結せしむる北極の下にも勇往猛進して福音を宣傳せんは彼か平素の決心なりき主の爲めに死せんは彼か平常の覺悟なりき。其身を聖き活ける祭物として献けんとは彼か生平の壯語なりき、主の爲めにならんには如何なることをもなさんとするは即ち彼か生前の特質なりき主の愛し玉ふ此の靑年今や絶海の孤島に於て主の爲めに殉せり、我等の情豈に悲みに堪へさるものあらざらんや今や彼は氷海に於て主の爲めに殉せり、彼は身を以て道の證となせり彼は明治の殉教者となれり、彼は實に聖き供物として其身を主に献じたり、彼が爲めに高き紀念碑を建つる此れ彼か志を續く所以にあらず。徒に彼を讃むるは彼か悦ふ處にあらず。額を蹙めて共に悲叫するも又彼を念ふ所以にあらず。盛に福音を宣傳し献身犧牲主の御旨を奉して幾多の靈魂を救ふは彼か志を繼く所以なり。我等今高橋傳五郎紀念傳道會を創立し幾多の期望を建つると共に先づ彼か着手の地を撰んで千島傳道を繼續するは此の感あればなり。仰ぎ願ふ全日本の兄姉我等に同情を表して應分の助けを與られんことを。

創立者惣代

押川方義

全國の有志諸君御中

一寄附金は多少に關せさる事

二各地其地の世話人或は直ちに創立者へ御送金せらるゝ事

三期限は八月十日までとすると、等を募金の規律とす

生徒募集廣告

入學志願者は滿廿二年已上身體健康品行方正普通ノ書キ讀ミ算術ノ出來ル夫ナキ婦女ニ限ル學資ハ食料トシテ一ヶ月貳圓四拾錢ヲ要スル而已望ノ方ハ九月十日迄ニ申込マレバ諾否ヲ報ズベシ

京都烏丸上長者町

同志社病院看病婦學校

本誌代價

冊數	定價前金	市外定價郵税共
一冊	金六錢	金六錢五厘
十冊	金五十八錢	金六十三錢
廿六冊(半ヶ年分)	金一圓四十三錢	金一圓五十六錢
五十二冊(一ヶ年分)	金一圓六十錢	金二圓八十六錢

廣告料及無料廣告

一行一回 前金十錢 (廿七字詰)
同三回以上 一割引
同六回以上 二割引
○十行以上一割引。○二十行以上二割引。○四十行以上四割引。
但し不道徳なる廣告は謝絶す、慈善の廣告は社議の上無代價にて引受く○特別廣告は婦女に關する協會合會等の記錄を掲ぐるものにして一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部注文を要し以上半頁毎に十部増さと定む。

發賣所 東京市神田區表神保町六番地 女學雜誌社書店

發行所 東京府北豐島郡王子村下十條八百五十一番地 女學雜誌社

編輯兼發行人 巖本善治

印刷人 堀口庄三

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地秀英舍工場印刷(電話十九番)

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY